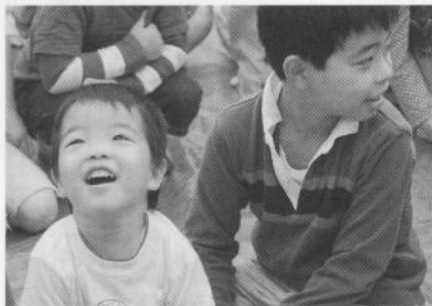


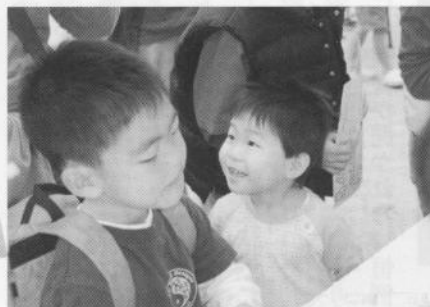
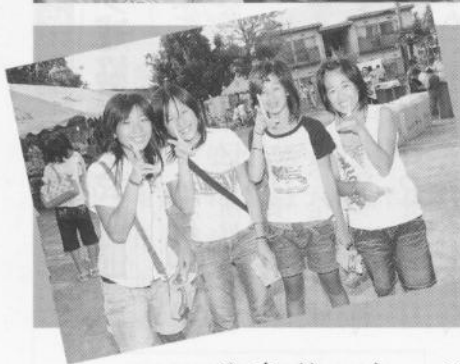
少連協ニュース

発行所/足立区少年団体連合協議会
<http://www.a-shorenkyo.jp>

発行人 野辺 陽子
編集 調査広報部



笑顔いっぱいの 子どもたち



今時の子ども達の有り様を、嘆く向きも多いと思う。それでは、そんな子ども達に育てたのは一体誰だろうか。もちろん社会全体と言えどもそれまでだ。どんな環境にあらうとも、一番身近な親、とりわけ母親が賢い育て方をしていれば、子どもは、そうそう道はずれることもあるまいと思うのだ。

ゲーム機やファミコンの脳に及ぼす悪影響をどんなに説いたところで気にもとめない親。「早寝、早起き、朝ごはん」「ま・ご・わ・や・さ・し・い」(豆・胡麻・海草・野菜・椎茸・芋)と食育を叫んでも、右から左にすり抜けてしまう親。子ども会に入会をと勧めると、役員をやらなければならぬからと、子どもを入会させない親。

授業参観に来て、メールの手を止めず、かなりの声で母親同士のおしゃべりが続き、廊下は社交場と化するのだ。身勝手な親にふりまわされる子ども達は、いつも被害者を余儀なくされるというわけだ。そして、同じように、自分さえよければいいと考える大人へと成長していくのだ。

この悪の連鎖を断ち切るには、どうしたらよいのだろうか。でき上がってしまった大人を教育し直すには時間もエネルギーも足りない。やはり幼児期からの教育を徹底させなければならぬだろう。それには国の施策として、区をあげて国をあげての取組みへと発展させていくことだ。

少連協の草の根的な活動が、目の見ることがあるのだろうかと思心暗鬼に陥る今日このごろではある。

「現代子ども事情」のうら側

足立区少年団体連合協議会会長

野辺 陽子



子どもたちの未来のために

足立区教育長 齋藤 幸枝

足立区少年団体連合協議会の皆様には、日頃から地域における青少年の健全育成活動に尽力をいただき、心から感謝申し上げます。

また、本年二月には、永年にわたる顕著な業績が認められ、社団法人全国子ども会連合会の団体表彰を受賞されましたことを改めてお祝い申し上げます。

さて、現代の子どもたちを取り巻く環境は、めまぐるしく変化し、多様化しております。今日のインターネットの発達は、情報収集の迅速化を産みましたが、反面、裏サイトによるいじめやそれに起因する自殺は、まだまだ減少してはいえませんが、また、犯罪に巻き込まれてしまう子どもたちも少なくありません。さらに、子どもたちの遊びでも、コミュニケーションを豊かにする会話を必要としないテレビゲームやパソコンでの遊びが当たり前のようになり、外で友達同士身体を動かして遊ぶ活動が減少し、会話も上手にできない子どもが増えているようです。このような環境の中、青少年の

豊かな成長を支え育むためには、子どもたちが安全・安心でできる地域づくりや様々な体験活動を充実していくことが重要であると考えております。そのためには、地域の教育力の充実を図り、青少年が地域社会に参加・参画できるように仕組みづくりが必要です。

幸い少連協は、教育委員会の委託事業であるジュニアリーダー研修会や鹿沼での宿泊キャンプ事業を実施し、身体を動かし、そこから学ぶ活動や不慣れな環境の中での体験を学習させる一翼を担った活動を続けていただいております。

また、地域に密着した活動を行う地区少年団体協議会の活性化を図るために、昨年度から独自の事業「がんばる地少協」助成を行うなど、新たな取り組みも展開していただきました。

教育委員会は、このような少連協の活動に対し、敬意を表するとともに、積極的に支援をしてまいりたいと考えております。足立の子どもたちの健全な成長のために、今後とも、皆様のご理解、ご協力を切にお願い申し上げます。

平成20年度 少連協新年会開催

平成二〇年一月一五日(火)、

午後六時三〇分、区役所展望レストランに於いて、ご来賓の皆様には華を添えていただき、全員で区歌「わがまち足立」を斉唱。主催者、野辺会長の「力を合わせ子どもたちのために連帯と連携の絆を強め、活力ある新年としたい」と強いメッセージが年頭に発信された。主賓の近藤やよい区長から「行政の柱に子どもを育む取組みが重要」と訴えられ、会場の耳を引き付けた。そして日頃の健全育成活動に感謝と慰労の言葉をいただいた。齋藤教育長の乾杯のご発声により和やかに懇親会が開かれた。恒例

足立区少年団体連合協議会平成20年新年



野辺会長のあいさつ



近藤区長と和気あいあい

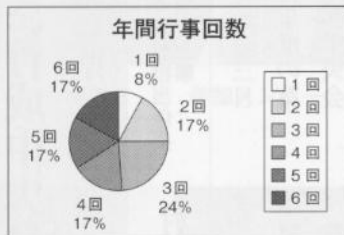


全員で♪青い山脈♪大合唱

のビンゴゲームの豪華賞品に(？)一喜一憂。一〇六名が佳境に浸る中、二〇〇八年度「少連協」の幕開けにふさわしく全員的心と手をつなぎ「青い山脈」を大合唱。大きな結末の輪はあついでとぬくもりの手に伝わり、子どもたちに夢と希望に満ちた未来が訪れることを祈りつつ、その余韻の中、閉会した。

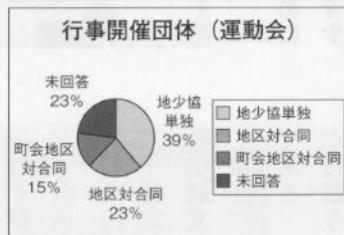
先日は、アンケートにご協力いただきましてありがとうございます。回収率は42%です。結果をご報告いたします。

地少協年間行事は

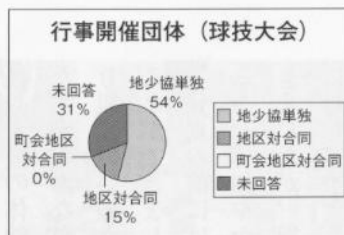


年間3~4回程度行事を催しているところが多いようです。運動会や球技大会がメイン行事となっている地少協が目立ちました。

開催団体はどーなっているの？



運動会は地少協単独が40%、他団体と合同が約40%となっています。子ども会会員数の減少が唱えられていますが、半数弱の地少協が運動会を単独で開催できるエネルギーを持って頑張っています。

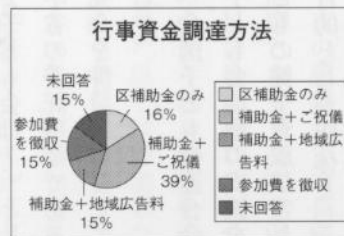


球技大会に於いては、54%と半数以上の地少協が単独開催をしています。単独開催ができる

こんなに地少協は頑張っている

ということは、子ども達の参加が多い魅力ある内容だからかもしれません。

気になる資金調達方法は？



約40%の地少協が補助金+ご祝儀などの副収入で行事を賄っています。

この補助金は、各子ども会に年度初めに会員の名簿の提出をお願いしています。

会員1人あたり、150円×会員数が助成金となっています。各地少協の助成金分配方法はさまざまですが、どこも少ない予算でやりくりしているようです。しかし突出している地少協もあるようです。地域に広告料としてスポンサー依頼をしている団体が15%ありました。

地域が子ども達に支援をしています。商店街が少なくなり、人と人の関係が細くなる中、貴重な地域ではないでしょうか？ また支援をいただくための努力もかなりのものだと思います。

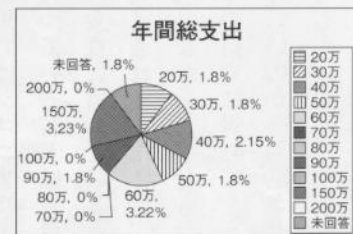
年間総支出ってどのくらいでは、各行事に、どのくらい

の費用をかけているのでしょうか？

団体の会員数によってもことなりますが、概ね50~60万円程度の費用の捻出が伺われます。各行事の備品・ボランティアの昼食など最低限の支出のみですが、年間の行事回数からすると厳しい懐事情が伺えます。

前号の少連協ニュースで取り上げましたが、足立区は子ども達の数の減少は、概ね過去10年ありません。にもかかわらず、今後10年後には、ボランティア等の不足により子ども会数は、半減してしまう予想です。

地少協関係者は、熱意を持って従来通り子ども達とのかかわりを持つ行事を考えているようですが、厳しい財政難により行事回数の削減、または規模の縮小化をせざるを得ない状況になりつつあるのではないのでしょうか？ 資源の少ない我が国の唯一の誇れる資源は、子ども達の平等な教育でした。この資源を枯渇させないためにも、資金不足・ボランティア不足を解消するようなシステムを作っていかねければならないでしょう。行事企画書申請→報告書提出などにより、補助が受けられるようなシステムも一案だと思いますが……。



全国子ども会育成中央会議・ 研究大会（福島県いわき市）開催

青少年センター
青少年教育担当係長
社会教育主事

村上 長彦



平成二〇年二月一日から三日

間にわたって、平成一九年度の第四一回全国子ども会育成中央会議・研究大会が福島県いわき市において開催され、少連協役員から野辺会長、岩澤副会長、山崎副会長、山本副会長、小野田書記の五名の方々が参加しました。また、青少年センターの村上も分科会の進行担当などで参加しました。

会議は全国の子ども会関係者が六〇〇名以上集まり、熱心な研究協議が繰り広げられました。

●少連協が全国子ども会連合会表彰を受ける
この会議では、毎回全国の指導者や育成者などの働きに対して表彰を行っています。今回は育成者組織として足立区少年団体連合協議会が永年にわたる足立区での子ども会育成の実績に対して全国子ども会連合会表彰を受け、全国子ども会連合会会長代行の小林氏より野辺会長が表彰状を受け取り

ました。

●青少年の自立を支援するために
今回の大会は、テーマを「青少年の自立を支援するために……いま子ども会は？」として、文部科学省の委託事業である自立支援研究会を併設事業として実施されました。

全国子ども会連合会は、全国の子ども会活動の支援を通して、子どもの健全育成に寄与することを目的とした団体として、「子どもの手による子ども会」の実現を目指して様々な取組みを進めてきています。

しかし、全国の子ども会では市町村の合併による組織の再編成、保険業法の改正に伴う安全会制度の見直しなどの課題を抱えるとともに、価値観の多様化とともに参加者が減少していることや親の地域参加意欲の減退による子ども会離れなど、解決を迫られている課題が山積しています。

さらに、若者の社会的な自立の遅れが問題になってきているため、子ども会活動を通して自立を支援して行こうということで、今回のテーマ設定になりました。

●伝統文化を継承する子どもたち
初日の開会式に先立って、会場である、いわき市伝統の「じゃんがら踊り」という念仏踊りの継承活動を行っている子ども会の小学生による「じゃんがら踊り」の披露が行われ、盛大な拍手が送られました。

●分科会では
二日目の研究協議は、午前と午後五コース一九種類の様々な分科研究会が開催され、子ども会の方方を考えたり、活動に生かすための実技研究を行ったりしました。さらに、いわき市の地域を見て回る分科会や安全会などの事務会議も行われました。

●じゃんがら踊りの子どもたちと交流を深める

私、村上は、午前、午後を通して、いわき市の公民館を会場としてお借りして、子ども会でじゃんがら踊りの伝承を行っている指導者、育成者、子どもたちと交流の時間を過ごしました。

子どもたちの演技の後、実際に鉦や太鼓の体験をしたり、子どもたちがどんな思いで伝承文化に取り組んでいるかについて話を聞くことができました。

昼食の前には一緒に餅つきをするなど、和やかに過ごすことができましたが、指導者の厳しい指導に対して子どもたちがうまくならないという前向きな姿勢で取り組んでいる姿に感動を覚えました。育成者の真剣な思いには子どもたちも真つ直ぐに返してくれるのだということを教えられました。

●自立支援を考えるシンポジウム
最終日は青少年の自立と大人の役割を考えるシンポジウムでした。私もパネリストの一人として、全国子ども会連合会で行った調査の結果ではジュニアリーダー活動を行っている若者は、自立度が高く、社会性に富んでいるということが実証されました。そのことに触れながら、子ども会として青少年の自立に対してどう取り組んでいるのかをお話させていただきました。

子ども会活動を活性化させ、子どもたちがよりよく成長できるように支援していきたいものです。

第41回(平成19年度)全国子ども会育成中央会議・研究大会



参加メンバー



全国子ども会育成中央会議・研究大会



表彰をうける野辺会長

二月一五日(金)から一七日(日)にかけて、福島県において第四一回全国子ども会育成中央会議・研究大会が開催され、野辺会長・山崎・岩澤・山本副会長・小野田書記と村上係長が参加しました。

初日には開会式と表彰式が行われ、わが少連協にも全国子ども会連合会より表彰状をいただきました。

夜の懇親会では長崎県の代表と同席となり、交流を深めました。

二日目はAコースからEコースの中より各々分担を決め参加しました。以下は参加した分科会のまとめです。

Aコースは「子どもが描く子ども会像と子ども会に求められるも



表彰状と盾

の」というやさしさそうでなかなか奥の深い問題で、永遠のテーマではないでしょうか。子ども会活動にかかわる育成者に求められている課題が多様化、複雑化になりがちなかで、悩んでいる育成者の話にならなづき、徳島の代表と同席できたこと、また茨城の代表に座右の銘を聞き感動しました。

その座右の銘を紹介します。

夢なき者、理想なし
理想なき者、目標なし
目標なき者、計画なし
計画なき者、実行なし
実行なき者、成果なし
成果なき者、喜びなし
甘い自分を反省しました。

(小野田 記)



▶▶じゃんがら踊り



平成一九年二月二日(日)、七時四〇分、青少年センターから栃木路、初冬のたたずまいを求め、三五名を乗せて出立した。歳末の時期とは言え、三五名の皆様が研修会に集うことができたのは少連協の結束の現れ。

早速、車中の研修会が始まる。真剣に首をひねる難問題から、とんちが利いた問題まで童心に返つ

少連協
「日帰り研修旅行」開催
冬の栃木路
総務部長 **鈴木 春男**

て答える姿はまさに小学生の遠足さながらだ。「楽しく学ぶことの大切さ」を研修できました。

今市を過ぎ、鬼怒川の名所、龍王峡だ。激しい水の流れは雪景色に調和し、龍王峡の出で立ちが変わる。空気が冷んやりと気持ちがいい。

いよいよお目当てに到着。「川治温泉宿屋伝七」で昼食と温泉入

浴。少し入浴時間が足りない。お料理と温泉は次回の宿泊で堪能することしよう。

帰りは今市のおかき工房・手焼きせんべい体験。自分で焼いた手焼きせんべいは格別に美味しい。



▲参加者一同、ハイ！ チーズ！



▼たのしみにしていたお食事です

いい体験ができた。

午後六時、定刻到着。夜の帳帷とばりがおりた。すっかり暗くなった。

無事親睦を兼ねた研修会が終了できましたようだ。今日の心の絆が明日の糧になりますように。

中学生のボランティア状況

今、中学生はどのぐらい地少協と係わっているのでしょうか？

土、日曜日は、クラブ活動・塾などで、時間にゆとりがない中学生は、ボランティアができませんでしょうか？ 私の疑問とはうらはらに中学校の校庭・体育館で開催される運動会・球技大会のお手伝いは、予想を超えるものでした。運動会では、全ボランティアの四割、球技大会では、約三割のボランティアが中学生です。ここだけを見ると地少協の未来は、ものすごく明るく前途揚々としています。

しかし、その後、高校生になると一、二名程になってしまいます。なぜ？ 単年度だけのボランティアになってしまうのでしょうか。地少協が学校単位にお手伝いの依頼をしているため、単年度になってしまうのでしょうか。

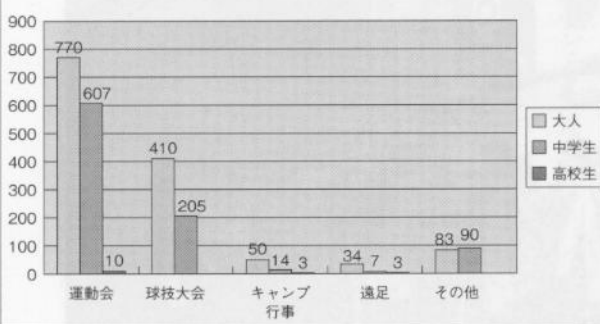
しかし、各地少協は後継者探

しの時期がまもなくやってきます。タイムリミットが来る前に継続してお手伝いができる中高生を育てていかなくてはなりません。手弁当でお手伝いをしてくれる希少な人材はいません。

足立区政にお願いしたいことは、前途有望な中・高生を育成するためにボランティア費用の上乗せを……

学校単位でも地少協単位でもどちらでもよいと思います。子ども達の可能性を引き出す場として、また子ども達の自己発見の機会としての経費を考えてはいかがでしょうか？

ボランティア活動状況



<p>主催団体 足立区第4地区少年団体協議会 責任者 会長 田中敏明 行事名称 第4地少協連合運動会 開催日 H19年5月13日(日) 会場 第4中学校 目的 地区内の児童・生徒の健全育成に関わる育成者と学校、PTAとの連絡、協調を計る。 参加対象 地区内幼児・小学生・中学生・一般 特記 運動会競技とともに第4中学校教職員17名吹奏楽部・千五小祭囃子連・金管バンド・弥生小太鼓クラブ・金管バンドの演奏に会場は地域の連帯感を発揮する。 参加者 941名</p>	<p>主催団体 上沼田地区少年団体協議会 責任者 会長 堀内 厚 行事名称 合同ウォークラリー 開催日 H19年5月13日(日) 会場 五色堤公園(江北コミュニティーセンター) 目的 第13地区内の子ども会と親睦を計り、地域の良いところを再認識する機会とする。 参加対象 小学生～中学生 特記 小中の異年齢15グループを作り、中学生をリーダーとし、問題を解きながら江北橋から荒川土手左岸を鹿浜橋までの約4kmを往復する。 参加者 193名</p>
<p>主催団体 江南地区少年団体協議会 責任者 会長 今井喜代 行事名称 チャイルドタウンフェスティバル 開催日 H19年6月24日(日) 会場 宮城小学校 目的 健全育成会とジュニアリーダーの実践研修を計り、地域に大人と子どもが関わり、交流を深める。 参加対象 乳幼児・小学生・ジュニアリーダー・育成会・地少協役員・足立シニアクラブ 特記 足立シニアクラブの協力も特筆、地域交流の場として若若男女、バザー・模擬店・遊び場・昔話に伝統行事は大盛況。 参加者 517名</p>	<p>主催団体 扇地区少年団体協議会 責任者 会長 鈴木春男 行事名称 サマーフェスティバル 開催日 H19年8月25日(土) 会場 興本扇学園興本小学校 目的 地域育成会・町会・自治会・PTA・小中学生ボランティアの連携、連帯、交流を目的とする。 参加対象 児童・生徒 特記 地域の行事として第17回の伝統行事。サマーフェスティバルが地域の活力に寄与し、学校と地域の交流の機会に発展。学校教職員の参加40名も特筆。 参加者 1440人</p>
<p>主催団体 栗島地区少年団体協議会 責任者 会長 芝田宏子 行事名称 地域を知ろうオリエンテーリング大会 開催日 H19年10月28日(日) 会場 栗島中学校・学区域10町会 目的 小中連携の地域として学校と地域の合同事業・地域を知ることによって地域を愛する心をはぐくむ機会とする。 参加対象 学区域児童・家族 特記 グループ分けしゼッケンをつけて7ポイントチェック。中学校でゴール、昼食券を受け取り校庭にて昼食。ジュニアリーダー研修として紙飛行機飛ばしの会場スタッフとなってもらおう。 参加者 300人</p>	<p>主催団体 第12地区少年団体協議会 責任者 会長 小久保 隆 行事名称 第38回第12地少協大運動会 開催日 H19年10月28日(日) 会場 大谷田小学校 目的 運動会行事を通じ幼児から大人まで地域の親睦を深める機会とし、また、子どもたちの健全育成に大人の関心を促す。 参加対象 第12地区在住の幼児から大人まで。 特記 来賓の声援には地域の子どもの守る気概がみなぎり、中学生のボランティア活動も少連協の事業には相応しい。第38回の伝統を青少年健全育成に生かしたい。 参加者 1055人</p>
<p>主催団体 蒲原地区少年団体協議会 責任者 会長 清水武忠 行事名称 「第43回新春作品展」 開催日 H20年2月2日(土)～3日(日) 会場 東漕江小学校体育館 目的 子ども会の向上発展と少年の親睦と健全育成を目的とする。 参加対象 蒲原地区少年団体協議会加入の子ども会7団体(中学生・幼児可) 特記 絵画・書道・工作、出品は各1品とし優秀な作品は表彰する。また特選作品は表彰状を授与する。表彰式の当日は雪が降り体育館は冷蔵庫のように冷え込んだ。 参加者 420名</p>	<p>主催団体 鹿浜地区少年団体協議会 責任者 会長 小宮謙治 行事名称 小学校卒業球技大会 開催日 H20年3月2日(日) 会場 北鹿浜小(体育館・校庭)、交通公園野球場 目的 各育成会より推薦の模範児童の表彰。小学6年生が中学生としてスムーズな自覚と移行の機会とする。 参加対象 子ども会員及び育成会会員 特記 育成会7団体より模範児童の表彰と子ども会活動の作文朗読。地域への感謝と地域愛・他人への尊重を大会を通じ学ぶ。同時に育成会の親睦を計る。 参加者 250人</p>

野辺陽子会長の 「東京都青少年健全育成成功 労者」受賞を祝う会

二月一〇日(日)、都市農業公園に於て「野辺陽子会長の東京都青少年健全育成成功労者受賞を祝う会」が開催されました。

近藤やよい区長をはじめとして齋藤幸枝教育長、石井幸夫都子連理事長、その他野辺会長のお人柄を反映して八十余名の出席者で賑わい、楽しい雰囲気いっぱいとなりました。

ご主人様はじめ御家族皆様のご協力は大きな励みとされたことでしょうか。

今後ともさらなるご活躍をご祈念申し上げます。



少連協「ドッチビー」 の取組み

各地少協・子ども会活動の推進に、ぜひ「ドッチビー」へのチャ

子ども会での ドッチビー大会を

☆応☆援☆(支援)します!!

2007年9月～2008年8月
支援活動



レンジと協力をお願いします。耳慣れないスポーツですが、ルールは簡単。ドッジボールをフリスビーに変えたスポーツ……「ドッチビー」。

誰もが楽しく取り組める、意外性のフライングディスクの遊泳に夢中になり、頭をやわらかく、体をやわらかく対応する新スポーツです。
全国子ども会連合会では新しいスポーツ活動として「ドッチビー」を推奨しています。
ドッジボールをやわらかいウレタン製のフライングディスク「ドッチビー」に持ち替えて楽しんでみましょう。

編集後記

少ない部員数で侃々諤々、率直な意見を出し合いながらもユーモアを交え楽しい編集会議です。

前号の「グラフで見る区内の子ども会数、会員数の一〇年間の推移」そして今号の「こんなに地少協は頑張っている」と調査記事が続きましたがいかがでしょうか。ご意見などお待ちしています。

内容的にも皆さんに待たれるような「地少協ニュース」をめざして頑張っていきたいと思っておりますので、記事の提供等をお願いいたします。

(小野田 記)

少連協ホームページ

運営スタッフ募集

パソコンの得意な方、不得手の方、デジカメ好きな方、ホームページ作成に興味のある方、お集まりください。

子ども会、育成会、地少協、少連協活動取材し、ホームページ企画運営可能なスタッフを募集します。

笑顔いっぱいのスナップ募集

第42号「少連協ニュース」(次号)の足立の子どもの笑顔を募集します。「少連協ニュース」の表紙に掲載する笑顔いっぱいの児童・生徒のスナップ写真をお送りください。

連絡先 事務局

電話 03-52242-8169